



GIGA スクールって何者だ？

子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けて
～令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境～

校長 西澤 武

《GIGAスクール構想 文部科学大臣メッセージ 抜粋》

1人1台端末環境は、もはや令和の時代における学校の「スタンダード」であり、特別なことではありません。これまでの我が国の150年に及ぶ教育実践の蓄積の上に、最先端のICT教育を取り入れ、これまでの実践とICTとのベストミックスを図っていくことにより、これからの学校教育は劇的に変わります。

この新たな教育の技術革新は、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、特別な支援が必要な子供たちの可能性も大きく広げるものです。

また、1人1台端末の整備と併せて、統合型校務支援システムをはじめとしたICTの導入・運用を加速していくことで、授業準備や成績処理等の負担軽減にも資するものであり、学校における働き方改革にもつなげていきます。

忘れてはならないことは、ICT環境の整備は手段であり目的ではないということです。子供たちが変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成していくことが必要です。その際、子供たちがICTを適切・安全に使いこなすことができるようネットリテラシーなどの情報活用能力を育成していくことも重要です。

【令和元年（2019年）12月19日 文部科学大臣 萩生田光一】

以上のように、文部科学省の施策を受け、足立区でもGIGAスクール構想の実現に向け動き出したところです。まず各家庭におけるオンライン学習環境を整えるべく、今年度は区内小中学生のうち1万人にchromebook（クローム・ブック）というタブレット端末が貸与されます。来年度以降残りの3万人にも順次用意される予定です。昨年度から、校内では既に各担任がタブレット端末や大型ディスプレイを活用し授業を行っています。パソコン室のパソコンも従来型からタブレット端末に変更されました。

これらのICT環境を生かし、新型コロナウイルス感染症拡大防止策の一つとして10月中旬より、全校朝会を音声だけの放送朝会から、Zoomアプリ（Zoomとはパソコンやタブレット端末などを使って、いつでも簡単にテレビ会議ができるweb会議ツールです。）を活用し、校長室から全教室に画像と音声を流すZoom全校朝会を行っています。校長室では各教室の子供たちの明るい表情を見ながら校長講話を話すことができ、以前より臨場感のある全校朝会となりました。

とは言うものの、新型コロナウイルス感染症の恐怖から解放され、**一日でも早く校庭で全校朝会ができる日が来てほしい！**というのが**校長の本音**です。